SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

マイナンバー制度を利用した犯罪0の社会へ (実習の進捗発表)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤阪, 夢久, 飯田, 悠太, 中島, 穂野香, 伊藤, 勇樹, 遠藤, 裕斗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027428

マイナンバー制度を利用した犯罪 0 の社会へ

赤阪夢久(情報科学科)，飯田悠太（情報社会学科），中島穂野香（情報社会学科），伊藤勇樹（情報科学科），遠藤裕斗（情報科学科）

日本では，2016 年に行政手続きの簡略化を目的にマイナンバー制度が施行された．しかし，マイナンバーカードの国民への普及率は，2019 年時点で 14%と低い現状である．今後マイナンバー制度がどのような変遷をたどるのか，文献をもとに調査を行い，予測を立てた．調査の結果，諸外国の国民識別番号の普及率は日本より高く，高度なテクノロジーが活用されている．インドの国民識別番号であるアドハーは一人一人の指紋情報や虹彩情報が番号と紐付いている (Saurabh et al., 2013, Int J Comput Appl).

この調査結果に基づき，我々はマイナンバー制度の普及案と，マイナンバー制度を利用した犯罪防止システムを提案する．犯罪防止システムの一例として，SNS とマイナンバーのリンクが挙げられる．日本で，マイナンバーと紐付いた公的なメールアドレスを与えることで，SNS などのウェブサービス内で生じる犯罪の抑止に一定の効果が期待できる.

(学習マネジメント,担当教員：宮崎真)